

# 医学教育振興財団の活動<sup>\*1</sup>

紀伊國 献 三<sup>\*2</sup>

## 1. 医学教育振興財団

わが国には医学教育の向上のための組織が大きくいて2つある。1つは日本医学教育学会であり、これは主として個人会員を中心とする医学教育の向上のための研究者組織である。もう1つは1979年（昭和54年）に当時の文部省の認可により設立された医学教育振興財団であり、これはわが国の医学教育を担当する医科大学（医学部を含む）が組織として医学教育の改善向上を目指す団体である。わが国には79の医科大学と防衛医科大学校の計80の医学教育を担当する組織が存在するが、そのすべてが財団の会員校となっており、理事会、評議員会、運営委員会を通じて運営に参画している。

財団の事業目的は、「日本並びに諸外国の医学教育（卒後の臨床研修を含む。以下同じ。）の方向と実情とに関し、不断の調査研究を行い、その成果を医学教育機関に提供すると共に広く社会に公開するなど、日本における医学教育の充実向上について寄与し、もって医学の振興と人類の福祉に貢献することを目的とする」とある。

初代の理事長は当時順天堂大学学長の懸田克躬先生であり、国際医学教育シンポジウムや国内医科大学視察と討論の会をまず目的達成のため開催された。その後、1996年（平成8年）第2代理事長として東京女子医科大学学長吉岡守正先生が選出された。しかし先生のご病気により、翌1997年（平成9年）から現在の高久史磨自治医科大学学長が理事長の責任をとられている。

医学教育振興財団の事業としては定款には5

つの事業が謳われている。

- 1) 医学教育に関する調査、研究及び資料の収集並びにその成果の医学教育機関に対する提供。
- 2) 医学教育の方法の研究に対する助成。
- 3) 医学教育機関の教職員及び学生に対する研修の実施及び援助。
- 4) 医学教育資料の発行等医学教育機関から委託された事業。
- 5) その他目的を達成するための事業。

## 2. 医学教育指導者フォーラム

財団の活動目的と内容は上に述べた通りであるが、主なる事業としては4つの事業がある。その1は財団設立時に実行された国際医学教育シンポジウムのような、医学教育の指導者のための研究会の開催である。主として国内外の著名な医学教育指導者を講演者として招き、講演とそれに基づく討論の機会であり、毎年1回過去17回の実績をもっている。

今回はそのうち2002年より2005年までの主な事業について報告する。以前は第1日に主として外国から招待した特定の主題に基づく講演会とそれに関連する討論が行われ、第2日には国内の医学教育の問題をシンポジウム形式で討議するものであったが、2001年からは第2日には文部科学省、医学部長病院長会議、歯科大学付属病院長会議が共催する医学、歯学教育指導者のためのワークショップが開催されることになり、両者は有機的な関連はあるが、医学教育振興財団の主催の医学教育指導者フォーラムは1日間となった。その概要は表1に示す通りである。

## 3. 国内医科大学視察と討論の会

1980年の筑波大学医学専門学群で行われた第1回以来、全国の医科大学から1つを選び全国の

<sup>\*1</sup> Activities of Japan Medical Education Foundation  
キーワード：医学教育振興財団、医学教育指導者フォーラム、国内医科大学視察と討論の会、英国医科大学での臨床実習

<sup>\*2</sup> Kenzo KIKUNI 東京女子医科大学

表1 医学教育指導者フォーラム

	日時	会場	主題	講	演
第15回	2002年 8月23日	東京医科大学	新しい医学教育	M. Brownell Anderson Senior Associate Vice President, Medical Education, AAMC	「A Quiet Revolution: Medical Education in the United States and Canada in the Beginning of the 21st Century」
				Gerard F. Dillon Associate Vice President, United States Medical Licensing Examination, NBME	「The United States Medical Licensing Examination: Recent Developments and New Directions」
第16回	2003年 7月18日	東京慈恵会医科大学	フィジシャン・サイエンティストの育成	Sir Graeme R. D. Catto President, General Medical Council/Vice-Principal, King's College London/Dean, Guy's King's & St.Thoma's Hospitals Medical & Dental School	「Tomorrow's Doctors Today」
				Jill Gordon Associate Dean, Medical Education/Head, Department of Medical Education, University of Sydney	「Progress in Nurturing the Physician Scientists in the Modern Medical School」
第17回	2004年 7月23日	東京慈恵会医科大学	卒後臨床研修プログラムとその評価	Brian Hodges Associate Professor, University of Toronto, Faculty of Medicine, and Director, University of Toronto Donald R. Wilson Centre for Research in Education	「Postgraduate Medical Education in Canada: Achieving National Standards Through Accreditation and Examination」
				Steven Weinberger Senior Vice President for Medical Knowledge and Education, American College of Physicians	「Graduate Medical Education in the United States: Program Design and Evaluation」

大学から教員が参加し、2日間にわたって当番校のカリキュラムなど医学教育の現況のすべての説明を受け学生との討議も行った上、討論を通して医学教育の発展改善を図ろうとするものであり、医学部長、教育委員長など100名を越す参加者が集まり、活発な討論が行われている。学生との懇談討論が特徴の1つであるが、いくつかのグループに分かれた上で各学年から参加する10名前後の学生との懇談は大学側の教員は出席しないことから、大学の説明と大学の意図しているところが学生はどう受け取っているのかや学生からの改善の希望を聞くことができ、その内容は第2日目の総合討論の場でも議論されている。第1日目の終了後に行われる懇親会には学生も招待され、そこでも活発な本音の議論が行われ、それによってまた担当の大学の医学教育についての関心が高まるという利点も生まれている。表2は22～25回までの国内医科大学視察と討論の会の内

容を示す。

#### 4. 英国医学部医科大学における臨床実習

全国の医科大学の学生を英国の医科大学において英国の医学生と一緒に臨床実習を体験させるものであり、1990年より開始され、17回の経験をもっている。これは英国医学協議会(GMC)の会長を医学教育指導者フォーラムにお招きした際、当時医師法の関係もありわが国では医学生の臨床実習が必ずしも十分でないとの議論の結果、Newcastle upon Tyne大学とLeicester大学で開始されたものである。わが国同様、高等学校卒業後医学教育を行う英国とはわが国と多くの類似点があるが、伝統的に臨床実習を重んじる、病院から生まれた医学教育を行う英国で実際に現地の医学生と共に臨床実習を受ける機会はあまり多くなく、学生の間で極めて人気のあるプログラムとなっている。派遣は全国の医科大学から公募によ

表2 国内医科大学視察と討論の会

	日 時	大 学	講 演 主 題
第22回	2002年 9月5・6日	近畿大学医学部	特別講演①「医学教育を巡る最近の話題」 村田貴司 1. 新カリキュラム導入の経緯 2. テュートリアルシステム 3. クリニカルクラークシップ 4. 生物未履修者対策 学生との懇談 特別講演②「近畿大学の医学教育の目指すもの」 安富正幸 総合討論
第23回	2003年 9月4・5日	東京大学医学部	特別講演①「変わる医学部教育 医学教育の分析とフィードバック 学生による評価を中心に」 加我君孝 1. 東京大学医学部のカリキュラム改革 2. クリニカルクラークシップ 3. 東京大学医学部における臨床診断実習 4. 基礎医学教育と PhD-MD コース 5. PBLによるメディカルヒューマニティーの教育 学生との懇談 特別講演②「東京大学の医学教育の目指すもの」 廣川信隆 総合討論
第24回	2004年 9月16・17日	関西医科大学	特別講演①「これからの医学教育を考える」 石野利和 1. カリキュラム構成と評価 2. PBLチュートリアル 3. クリニカルクラークシップにおける学外学習 4. 教員評価 5. 大学院教育と研究体制 学生との懇談 特別講演②「建学の精神と本学医学教育の目指すもの」 日置紘士郎 総合討論
第25回	2005年 9月1・2日	長崎大学医学部	特別講演①「これからの医学教育を考える」 石野利和 1. 医学部生に必要な基礎学力 2. 基礎研究心の養成 3. 学生の成績管理と評価 4. 医学教育と地域連携 5. 医学における国際協力 学生との懇談 特別講演②「永井隆博士に学ぶ—長崎大学医学部の教育理念—」 兼松隆之 総合討論

て行い、学長・医学部長の推薦とブリティッシュ・カウンシルが行う英語試験 IELTS (International English Language Testing System) の受験が義務づけられている。その内容は実習報告書として財団から印刷され全国に配布されており、医学教育振興財団のホームページでも報告されている。選考委員会による書類選考と面接試験があるが、毎年優れた受験者が増加し、受け入れ先の事

情もあるが、何とか継続かつ増加させたいと思っている。最近、国際化の波を受けて各大学も医学部生を海外派遣する例もあるが、このプログラムはいろいろな大学の医学生が4週間ともに過ごすことにより、その際の討議や生活を通じて新しい発見があり、その後の学生間のネットワークの発展にも繋がっているようである。事実、受け入れ大学からわが国の医科大学に研修研究のための訪

表3 英国医学部・医科大学における臨床実習のための短期留学生の派遣

		応募学生数	受け入れ先	人数
2002年度	第14回目	33	Newcastle upon Tyne 大学	4
			Southampton 大学	4
			Leicester 大学	4
			Birmingham 大学	4
2003年度	第15回目	29	Newcastle upon Tyne 大学	4
			Birmingham 大学	4
			London 大学 St George's 病院医学校 (新規)	4
			Leicester 大学	4
2004年度	第16回目	32	Newcastle upon Tyne 大学	4
			Birmingham 大学	4
			London 大学 St George's 病院医学校	4
			Southampton 大学	2
			Leicester 大学	4
2005年度	第17回目	33	Newcastle upon Tyne 大学	4
			Southampton 大学	4
			London 大学 St George's 病院医学校	4

問の場合にこのプログラム参加者のネットワークが助力を行っている例もある。あとに述べる日英医学教育会議によってこのプログラムがさらに発展することが期待されている。表3に派遣大学と派遣人数を示す。

### 5. 日英医学教育会議

これら英国との交流から日英医学教育会議が2002(平成14)年10月オックスフォード郊外のDitchley Parkで開催された。これは、英国でわが国の医学部長病院長会議にあたるCHMA(Council of Heads of Medical Schools)が中心となってわが国からは医学教育振興財団を中心に日本医学教育学会などから医学教育者20余名が参加した会議である。この内容は医学教育振興財団の機関誌『JEMF』23号に発表されているが、英国日本共通の医学教育の問題が幅広く討議された。オックスフォード郊外のDitchley Parkは田園の中の城であり、第2次大戦中はチャーチルが滞在した由緒ある場所であり、世俗から隔離された場での3日間の会議には駐英日本大使も出席していただき、実りあるものであった。その席上でも日本からの臨床実習の学生が優秀であることが報告され、その結果ロンドンの医科大学が新

たに臨床実習を受け入れるなどの副産物も生まれた。3年後に東京で日英医学教育会議が開催されることも決定され、2005年10月東京において日英医学教育会議が開催された。表4にプログラムの概要を示す。

### 6. 医学教育研究の助成

医学教育振興財団初代理事長懸田先生の功績を称え、先生が希望した若手医学教育研究者を表彰することにより、医学教育研究を推進しようとするものとして懸田賞がある。1996年より開始されたが日本医学教育学会の創立に牛場大蔵先生と共に努力された懸田先生の想いを考慮して、日本医学教育学会に候補者の選考を依頼して医学教育学会大会の際に懸田賞として財団理事長から賞状と賞金の授与を行っている。2002年からの受賞者を表5に示す。また、医学教育に関する研究助成も研究助成審査委員会の審査によって選定を行っている。しかし、どのようなテーマがふさわしいのか現在運営委員会によって検討されている。

### 7. 刊行物の発行

財団はその成果を機関誌『JMEF』を定期的に

表 4 日英医学教育会議

会期：2002年10月18～20日		
会場：英国 Oxford 郊外 Ditchley Park Conference Centre		
Session 1	社会の変貌とその医学教育への影響 英国における医学教育の現況 日本における医学教育の現況	Sir Graeme Catto 高久 史磨
Session 2	基礎医学教育および臨床医学教育の質を向上させるには 卒前医学教育のためのモデル・コア・カリキュラムについて 科学的研究志向の育成：英国における MB-PhD カリキュラム	佐藤 達夫 Michael Spyer
Session 3 (Part 1)	医学教育の場 医学教育の場—地域か病院か	William Doe
Session 3 (Part 2)	教員の教育能力の向上 教育業績の評価	吉田 洋二
Session 4	基礎医学教育および臨床医学教育の質の保証と管理 医学教育の質 臨床実習前の全国共通共用試験 日本における医学教育の質	Peter Rubin 福田康一郎 村田 貴司
Session 5	総合討論およびまとめ	
会期：2005年10月14～16日		
会場：東京 高輪プリンスホテル		
Session 1A	ディベート：Problem-based Learning 対 従来のカリキュラム  日本の医学部における PBL (Problem-based Learning) カリキュラムの現況 英国における学士入学制度 日本における入学者選抜の動向	Sam Leinster Gareth Williams 吉岡 俊正 Terence Stephenson 堀田 知光
Session 1B	医学部教育における研究の役割 卒前医学教育における Research-oriented mind の育成 英国における医学教育の質の保証 日本における医学教育の質の保証	David Gordon 宮園 浩平 Sam Leinster 石野 利和
Session 2	教育者としての一般医の役割 日本における地域医療教育 イギリスにおける教育病院の役割 日本のマッチング・プログラムと卒後研修	William Doe 前沢 政次 John Caldwell 宇都宮 啓
Session 3	英国におけるファカルティ・ディベロップメント 日本におけるファカルティ・ディベロップメント 英国における医師免許更新制度 臨床研究者キャリアの保護	Sam Leinster 奈良 信雄 Sir Graeme Catto Steve Smith
Session 4	Intracellular Transport and Kinesin Superfamily Proteins, KIFs, Key Molecules for Life; Genes, Structure, Dynamics, Functions, and Diseases	廣川 信隆
Session 5	社会が医師に求めるもの 法人化に伴う大学環境の変化 職を失わせる5つの道—医療への脅威 少子高齢化が医学教育に及ぼす影響	Ken Fleming 兼松 隆之 Gareth Williams 桃井真里子
Session 6	進むべき道	Sir Robert Boyd

表 5 懸田賞受賞者

2002年度	第7号	田中 越郎	東海大学医学部教育計画部
2003年度	第8号	栗原 幸男	高知医科大学情報科学
2004年度	第9号	吉岡 俊正	東京女子医科大学医学教育学
2005年度	第10号	渋谷まさと	昭和大学医学部第2生理

発行して、すべての医科大学その他関係機関に配布する一方、医学教育指導者フォーラム、医科大学視察と討論の会、英国臨床実習報告などの報告

書を刊行している。また、ホームページ (<http://www.jmef.or.jp>) も開設し情報の公開に努力している。